

平成26年度補正

株式会社 新田

事業計画名

裁断工程の自動化による低コストかつ 小ロット・高品質製品の実現と事業の拡大

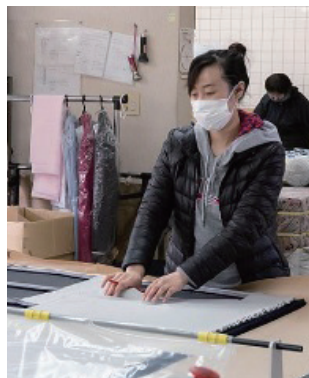
手作業工程の効率を向上させ、 最高級縫製手法「リバー縫製」普及を狙う

－事業の背景－

大幅な**時間短縮**を目指して

既製品のリバーコート市場において、リバー縫製の大ロット生産の受注ができる企業は3社のみであり、当社はその一端を担っている。だが、製品及び試作品の生産プロセスはすべて人の手によって行われていたため、総受注数が増加傾向にあるにも関わらず、生産量に限りがあり、新しい受注を受けることができない状況が続いた。

そこで、パターン(型紙)、マーキング、裁断までの工程を自動化するために機械を導入し、製造時間の短縮を図った。

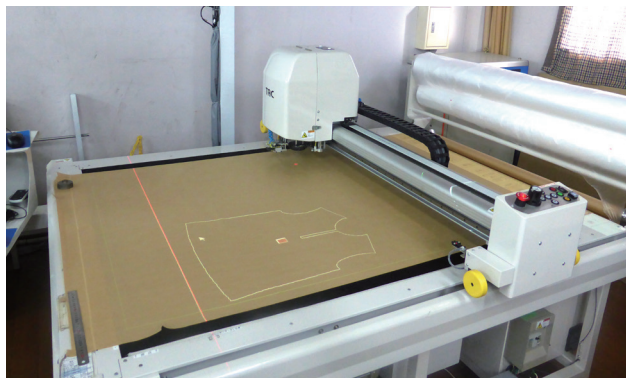


－事業の成果－

時間短縮で可能となった**新しい展開**

全自動裁断機及びCADシステムを導入することで、パターン工程から裁断工程までを自動化。工程リードタイムを5分の1以下に短縮できたことで、ユーザーからのニーズ「小ロット・高品質・低コスト」に対応した生産が可能となった。

また、リバー仕立てにおいては、レディーススーツやジャケットにもニーズがあることから、今までは冬場のリバーコート受注のみの対応だったが、秋春物の受注にも対応できるようになった。



－株式会社新田の概要－ 「リバー」と「カットソー」を**両立**している数少ない縫製工場

1953年創業の当社は、靴下などのメリヤス製造にはじまり、現在はアパレルメーカーやDCブランドを顧客として、リバー縫製コートとカットソーのOEM生産を行っている。

「リバー」の量産が可能な企業は全国に数社しかなく、中でもリバーとカットソーの量産を両立しているのは当社のみである。

また、奈良県のブランド支援事業「TEIBAN展」にも参加しており、ポジティブな生き方をイメージした自社ブランド「Aruki-tsudukeru」を立ち上げた。現在は松屋銀座で、奈良県がブランド開発支援事業の参加事業者が運営する奈良ブランドのセレクトショップ「N・A・R・A T・E・I・B・A・N」で展開している。



－株式会社新田の拘り－ 「**リバー縫製**」を正しく認識してもらい、**技術を継承**していく



一般的に「リバー」というと「リバーシブル=表も裏も着られる服」と認識されているが、当社が扱う「リバー縫製」は意味が異なる。

「リバー仕立て」「一重仕立て」とも呼ばれるその手法は、2枚の生地 of 裏面同士を接結糸で織り合わせ、両表にしたダブルフェイス生地を使用し、端の処理の際に特殊な手まつりで仕上げる。「リバー」とは最高級縫製手法で縫われたダブルフェイス生地一枚仕立ての服を指し、決して「裏も表も着る服」の事ではないのだ。表地1枚で仕立てるため、圧倒的に軽くて薄く、ソフト感、着心地の良さが、主製品であるコートはブランケットやストールを巻くような感覚で美しいシルエットを纏う事ができるため、近年需要が高まっている。

当社は「リバー縫製」において不可欠である「手まつり」職人の高齢化と継承者不足を補うため、高度技術を持った縫製工場との協力体制を構築し、職人存続に向けて熟練の職人たちが働く場の確保と、若手職人への技術継承にも取り組んでいる。

－株式会社 新田の社会貢献－

先入観に囚われず、家族の一員として**個々人の技能**を開花させ育む

当社は日本人の職人や中国人実習生、パート主婦など色々な人たちが集まっている。その中には障がいを持つ人もいます。

1966年に集団就職で雇用した従業員の中に障がいを持つ人が数名いたことがきっかけで、全く意図することなく「障がい者雇用」は始まり、現在は6名の方が働いている。

先代の自らの生活を削ってでも「従業員は家族として迎え入れる」という思いが雇用の礎となって現在も受け継がれており、職場の“合理的配慮”を進めるなど働きやすい環境を築き、本人達が適職とされてきた職種・範囲に囚われる事無く、新しい分野に共にチャレンジすることが大切だと考えている。



株式会社 新田

業種分類 繊維工業
事業内容 メンズレディースカットソーの製造販売、
リバーコートの製造販売

代表者名 代表取締役 新田 裕
所在地 奈良県北葛城郡広陵町南郷225-1
連絡先 TEL : 0745-55-3392 / FAX : 0745-55-3395
ホームページ <https://nitta-fam.co.jp/>
E-MAIL d.akimoto@ac.auone-net.jp